

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)	市立川西病院あり方検討委員会(第5回)		
事務局(担当課)	総合政策部政策推進室政策課		
開催日時	平成25年3月18日(月) 午後7時から午後9時まで		
開催場所	川西市役所4階 庁議室		
出席者	委員	(別紙委員名簿のとおり)	
	その他	姫野病院事業管理者、丸山病院長	
	事務局	本荘総合政策部長、石田政策推進室長、飯田政策課長、笠島政策課員 山田経営企画部長、西森理事兼地域医療連携室長、芝経営企画室長、新田経営企画課長	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	(別紙会議次第のとおり)		
会議結果	(別紙審議経過のとおり)		

# 市立川西病院あり方検討委員会委員名簿

平成 25 年 3 月 18 日現在

(敬称略 / 五十音順)

	委員氏名	職業等	選出基準	備考
1	甲斐 良隆	関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授	学識経験者	
2	加門 文男	川西市コミュニティ協議会連合会理事	市民・利用代表者	
3	竹本 博行	川西市医師会会長	医師会代表者	副委員長
4	土岐 祐一郎	大阪大学大学院医学系研究科外科学(消化器外科)教授・大阪大学医学部附属病院消化器外科 診療科長	学識経験者 (医師派遣大学代表者)	
5	難波 光義	兵庫医科大学内科学糖尿病科主任教授・兵庫医科大学病院 副院長	学識経験者 (医師派遣大学代表者)	委員長
6	西 育良	公認会計士	学識経験者	
7	松本 圭司	兵庫県阪神北県民局伊丹健康福祉事務所長	地域医療関係行政機関 の職員	

## 市立川西病院あり方検討委員会（第5回）会議次第

日時：平成25年3月18日（月）

午後7時～

場所：川西市役所4階 庁議室

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) 平成24年度市立川西病院あり方検討委員会意見のまとめについて

(2) 今後のスケジュールについて

4 その他

5 閉会

## 審 議 経 過

発 言 者	発 言 内 容 等
	<p><b>平成 24 年度市立川西病院あり方検討委員会意見のまとめについて</b></p>
	<p>事務局説明</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>この資料をもって委員会のまとめとするのか。それとも別途報告書を作成するのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>24 年度については、この資料をもってまとめとする。ただし、来年度以降議論する際には、項目ごとに整理した形でのまとめを提示する予定である。</li> </ul>
	<p><b>必要性について（2 ページ）</b></p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会として、病院の継続については異論なしとして良いか。</li> </ul> <p style="text-align: center;">異議なしの声</p>
	<p><b>【「主要な意見」1 点目】</b></p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続に異議はないが、「一層の経営努力を前提としたうえで」という条件を追記すべき。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>本来根幹的な診療科であり、市民からの期待も高い、内科や外科の必要性についても記載すべき。</li> </ul>
	<p><b>必要性の検討 どの場所に（3 ページ）</b></p>
	<p><b>【「主要な意見」1 点目】</b></p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>「他の医療機関との関係を考慮しながら立地を検討する」などの表現に改めるべき。</li> </ul>
	<p><b>【「主要な意見」2 点目】</b></p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果を尊重しつつも、「市内の他の医療機関との役割分担を考慮したうえで検討を要する」もしくは「医療従事者の確保を担保しやすいような立地環境を整えることが必要」などの表現に改め、幅を持たせるべき。</li> <li>立地については慎重に検討しなければならない。</li> </ul>
	<p><b>【「主要な意見」3 点目】</b></p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>「送迎バス」が具体的すぎる。「交通手段の確保」などの表現に丸めるか、他の項目を追加すべき。</li> </ul>

発言者	発言内容等
	<p align="center"><b>必要性の検討 誰に（４ページ）</b></p>
委員長	<p><b>【見出し】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「誰のための病院か」に修正すべき。</li> </ul>
委員長	<p><b>【「委員会における主な意見」４点目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内科をはじめ、整形外科、がん対応など、高齢者に必要な診療科を追加すべき。泌尿器科だけでは不十分である。</li> </ul>
委員	<p><b>【「委員会における主な意見」６点目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅医療展開の可能性については、あくまでも地域の開業医を補完する役割であるというスタンスに留めるべき。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 阪神間の自治体病院で、在宅医療にまで踏み込んでいる例はあるか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今の所ない。展開するならば、開業医との兼ね合いを考慮し、あくまでも主体は開業医であるべき。</li> </ul>
委員	<p><b>【「主要な意見」１点目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「高齢化が進む地域に密着した診療科を提供する」というスタンスを示すべき。</li> </ul>
委員長	<p><b>【「主要な意見」２点目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「高齢化の悪性疾患への対応が必要である」などにまとめるべき。</li> <li>・ また３点目として、「開業医との連携・補完により、市民病院に求められる役割を果たす必要がある」などを追加すべき。</li> </ul>
	<p align="center"><b>必要性の検討 どのような機能（５ページ）</b></p>
委員	<p><b>【「委員会における主な意見」２点目】及び【「主要な意見」】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「総花的で赤字部門だけ残るのも困る」という記述は委員会意見として望ましくない。前向きな書きぶりに改めるべき。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤字だから即手放すという方向性は、公立病院としては望ましくない。</li> <li>・ 「専門性がある診療科に特化しつつも、公立病院としての役割を果たす」などの記述にすべき。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 急性期医療についての記述があればいいのではないか。診療所では対応ができないため、公立病院が一定の役割を果たす必要がある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「内科、外科、小児科、救急などについては充実をめざす、公的病院として必要な産科、整形外科などについては、将来的な確保に向け努力する」という記</li> </ul>

発言者	発言内容等
委員	<p>述にしてはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニーズや専門性の高いものはさらなる充実を図り、足りないものについては将来的な拡充をめざすというスタンスで記述すべき。</li> <li>・ なお、許可病床数については、300～400床をめざした方が良い。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なお、リード文の「消化器科」とは、消化器内科か消化器外科かどちらを指すのか。</li> </ul>
病院長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消化器内科を指す。手術は外科で行っているが、内視鏡手術は内科で行っている。消化器科に関しては川西病院の中で完結できるようになっている。</li> </ul>
委員長	<p><b>制約 医師の確保（6ページ）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 核となるのは、指導力のある医師の確保や研修体制の充実である。</li> <li>・ また、将来的には総合診療的な科目や医師の確保をめざすべき。</li> </ul>
委員長	<p><b>【「委員会における主な意見」2点目】及び【「主要な意見」3点目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「医師の求人チャンネルを複数持つ体制を構築する」などに改め、医局という言葉は使用しない方が良い。</li> </ul>
委員	<p><b>【「主要な意見」4点目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5ページと重複するため削除されたい。</li> </ul>
委員	<p><b>【「主要な意見」】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性医師の確保も重要である。女性医療関連職が勤務しやすい勤務形態や環境を担保するなどという項目を追加すべき。</li> </ul>
委員長	<p><b>制約 財源（7ページ）</b></p> <p><b>【「委員会における主な意見」1点目】及び【「主要な意見」1点目】</b></p>
委員長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「経営の再編後」とは具体的にどういう意味か。</li> <li>・ 現時点で3町に負担を求めるのは難しいが、経営形態の見直しや改善の努力を行ったうえでは、という意味である。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「経営形態の見直しや経営改善の努力を行った際には、隣接3町に受益者負担に応じた相応の負担をお願いすることもありうる」など、努力条件を追加すべき。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「主要な意見」の順番は、 累積赤字 65 億円 補助金 9 億円 経営努力後の</li> </ul>

発言者	発言内容等
	<p>受益者負担の順にすべき。</p> <p><b>経営形態（８ページ）</b></p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民に赤字の無限責任を負わせるのではなく、市が負担していくということを押さえなければ、市民の理解は得られない。</li> <li>・ 経営形態を変更した場合は、独法化の場合はその法人が、指定管理者の場合は受託法人が責任を取るということを示しておくべき。</li> </ul>
委員長	<p><b>【「主要な意見」４点目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ４ページまたは５ページに移行されたい。</li> </ul>
委員	<p><b>【「委員会における主な意見」１点目】及び【「主要な意見」１点目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「隣接３町」という文言は削除すべき。すぐにでも３町に負担を求めるべきという市民の感情を喚起する恐れがある。</li> <li>・ 「地域の住民に相応の負担を求める」などという柔軟な表現にしてはどうか。</li> </ul>
松本委員	<p><b>【「主要な意見」５点目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「経営改善の努力をしてもなお改善が見込まれなければ、経営形態を変更する」という条件を追加すべき。現時点では経営形態の変更は確定ではない。</li> </ul>
委員長	<p><b>その他の追加意見</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10、11ページについては、今回の議論を踏まえ修正されたい。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川西市域に限れば高齢化率が高いが、猪名川町にはニュータウンに子どもが増えていることも加味するべき。産科医の確保にも留意願いたい。</li> </ul>
事務局	<p><b>まとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 25年度の前半には、市の方で、10年後の幼少人口に応じた立地、規模、医師の確保策や、今の場所での建替えや修繕が現実的に可能かどうか、川西市の特性に応じた望ましい経営形態やそれに伴うコストなどについて、客観的な調査研究を行う。</li> <li>・ そして後半には、その結果を踏まえ委員会にて再度議論いただく予定である。</li> <li>・ 調査にあたり必要な資料や調査項目があれば、適宜事務局に連絡いただきたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査の半ばでは、委員へ状況の中間報告をお願いしたい。</li> </ul>

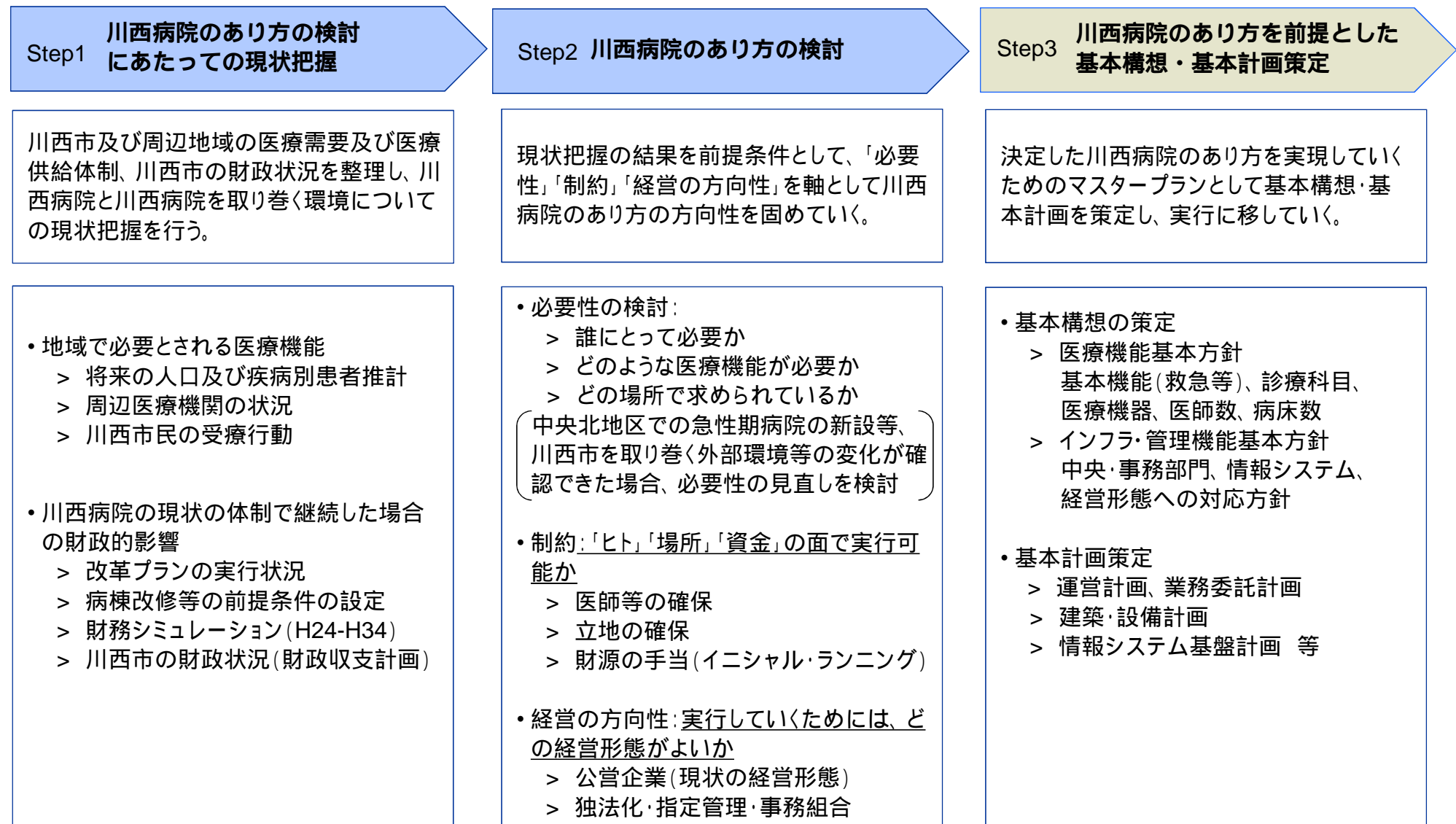
発言者	発言内容等
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本構想・基本計画はいつ定まるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 25年度中に構想・計画の方向性を定める予定である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケートの最終結果の報告はいつになるのか</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、自由意見部分のまとめを委員へ報告したのち、広報誌6月号で市民へ公表予定である。</li> </ul> <p style="text-align: right;">以上</p>



**平成24年度 市立川西病院あり方検討委員会意見のまとめ**

## あり方の検討に向けてのステップ

川西病院のあり方の検討では、まず、川西病院を取り巻く環境についての現状を把握したうえで、「必要性」「制約」「経営の方向性」を軸とした検討を行い、基本構想・基本計画の策定へつなげていくこととした。



## 委員会における主な意見: 必要性について(第1回～第4回の総括)

川西病院は、地域の医療機関にとって必要性が高く、本市における医療提供の重要な役割も果たしていることなどから、公立病院として継続していくべきである。

### 委員会における主な意見

#### 第1回議論抜粋(8/24)

- 川西病院は本当に必要なのか、状況に応じて病床数を考えるべき
- 課題(利用者の地域性など)があるが、市北部住民の利用者が多く必要性がある
- 川西病院がなくなれば阪神北圏域の病床数が不足になるので、現在の医療機能は重要

#### 第2回議論抜粋(10/11)

- 川西病院がなくなれば市北部が医療過疎地になり、住民は困ることになる
- 市北部の救急搬送の多くを川西病院が受けており、住民には欠かせない
- 川西病院は市民に必須の病院である。市民のコンセンサスは得ないといけないが、継続は間違いない

#### 第3回議論抜粋(10/31)

- 継続するとして、阪神北医療圏域では隣接3町にどのように協力を仰ぐか検討すべき

#### 第4回議論抜粋(2/6)

- アンケート結果では様々な必要性(救急や小児科等)があり、どのように満たすかは別にしても継続の必要があるのではないか

### 主要な意見(抜粋)

- 川西病院は市民に必須の病院である。市民のコンセンサスは得ないといけないが、継続は間違いない
- アンケート結果では様々な必要性(救急や小児科等)があり、どのように満たすかは別にしても継続の必要があるのではないか

## 委員会における主な意見：必要性の検討 どの場所に(第1回～第4回総括)

川西病院は、本市における医療提供において重要な役割を果たしている。特に、小児医療は最後の砦となっている。

### 委員会における主な意見

#### 第1回議論抜粋(8/24)

- 中央北地区の医療機関については、現在は未定であるが、病院の新設はまちづくりと同時に考える必要がある。
- 医師会からの意見で言うと隣接町の医療も考えたい
- 市民のための病院であるので、隣接3町のために置いている訳ではない

#### 第2回議論抜粋(10/11)

- 市南部のクリニックは、市北部にある川西病院の評価は低い傾向にある
- 立地も含め、医師に来てもらえるような環境が必要
- 立地が良くなければ、送迎バスなどのアクセス対応は必要である

#### 第3回議論抜粋(10/31)

- 阪神北医療圏域で見た場合、地域のクリニック等の医療機関との連携(分業)を考えるべき

#### 第4回議論抜粋(2/6)

- アンケート結果では、回答者の約6割が病院の継続を希望しており、場所については北部地域が最も多い

### 主要な意見(抜粋)

- 小児医療にとっては、現在ベリタス病院の4床しかなく、重要な最後の砦となっている
- 立地も含め、医師に来てもらえるような環境が必要
- 立地が良くなければ、送迎バスなどのアクセス対応は必要である

## 委員会における主な意見: 必要性の検討 誰に(第1回～第4回総括)

救急医療においては、重要な役割を果たしており、高齢化が進む本市においては、高齢者医療への対応が求められる。また、小児科の入院機能は川西病院に頼っており、小児科医療も必要である。

### 委員会における主な意見

#### 第1回議論抜粋(8/24)

- まanus高齢化が進み、外来については交通手段は重要な要素になってくる

#### 第2回議論抜粋(10/11)

- 高齢化や整形外科、救急、小児科医療については川西病院の医療のキーワードになる
- 小児医療は川西病院がなくなるとベリタス病院の4床しかなく、最後の砦である

#### 第3回議論抜粋(10/31)

- 高齢化に伴いQOLやADLの観点から泌尿器科は必要ではないか
- 高齢者にとっては、近くにあるすぐに対応してもらえる病院はこころ強い
- 在宅医療の充実も、点数が高い事もあるので必要ではないか

#### 第4回議論抜粋(2/6)

- 高齢化については特にこれから要求される。急性期から維持期、緩和期についてどこまで市民病院としてやるかが課題
- アンケート結果からは、子供の病気について、川西病院の利用希望率が低い。待ち時間の問題もあるが、分散して受診していると思われる

### 主要な意見(抜粋)

- 高齢化や整形外科、救急、小児科医療については、川西病院の医療のキーワードになる
- 高齢化については、特にこれから要求される。急性期から維持期、緩和期についてどこまで市民病院としてやるかが課題

## 委員会における主な意見: 必要性の検討 どのような機能(第1回～第4回総括)

救急や小児科、専門化している内科、消化器科等について、近隣医療機関との連携を視野に入れた診療科の特化及び集約化が必要である

### 委員会における主な意見

#### 第1回議論抜粋(8/24)

- ベリタス病院に患者が流れている。病床数は状況に合わせるべき

#### 第2回議論抜粋(10/11)

- 標榜診療科については偏りすぎてもいけないが、総花的で赤字部門だけ残るのも困る
- 小児救急も輪番制で担っている、がん診療準拠点病院にもなっている
- 小児、産科、救急、循環器、整形、高齢者医療は残すべきでプラス目玉

#### 第3回議論抜粋(10/31)

- 高齢化に伴いQOLやADLの観点から泌尿器科は必要では(再掲)
- 産科、小児、救急などコア診療科とし、他科を他医療機関に任せることも必要ではないか
- 地域的には高齢者が増え、がんの患者も増えている。がんの合併症等関連疾患が同時に治療できるシステムが将来的には欲しい

#### 第4回議論抜粋(2/6)

- アンケートを診ると、万遍なくやることは求められておらず、市民は機能に応じて病院を選択したいと考えている。
- 高齢化に伴い整形外科は必要であるが、現在他病院がその役目を担っており、それ以外の診療科で役目を果たすことも必要
- 専門に特化した診療科に集約化する必要がある。内科、消化器科は専門を掲げているのでやる必要がある

### 主要な意見(抜粋)

- 標榜診療科については偏りすぎてもいけないが、総花的で赤字部門だけ残るのも困る。病床数は状況に合わせるべき
- 専門に特化した診療科に集約化する必要がある。内科、消化器科は専門を掲げているのでやる必要がある

## 委員会における主な意見:制約 医師の確保(第1回～第4回総括)

川西病院の存続には、医師確保は最重要課題である。大学医局とのパイプは複数必要であり、診療科の専門化は必要である。また、集約化された診療科のラインナップと、若手の育成に注力すべきである。

### 委員会における主な意見

#### 第1回議論抜粋(8/24)

- ある診療科科目や疾患について地域で集中的に取り組みたいのであれば大学として重点的に医師を派遣する事は可能
- 大学医局も複数持つ必要がある。特化した科目や救急にポイントを絞るのであれば近隣大学医局の協力が得られるのではないか

#### 第2回議論抜粋(10/11)

- 指導医師など育ててくれる医師がいることが若手医師にとっては魅力的である
- 立地も含め、医師に来てもらえるような環境が必要

#### 第3回議論抜粋(10/31)

- -

#### 第4回目議論抜粋(2/6)

- 大学の都合で診療科の集約化は避けられない。全診療科に医師が来るのは無理であろう
- 専門性が低いというアンケート結果だが、消化器については他病院と比しても遜色はない
- 専門に特化した診療科に集約化する必要がある。内科、消化器科は専門を掲げているのでやる必要がある(再掲)

### 主要な意見(抜粋)

- 特化した科目や救急にポイントを絞るのであれば近隣大学医局の協力が得られるのではないか
- 指導医師など育ててくれる医師がいることが若手医師にとっては魅力的である
- 大学医局も複数持つ必要がある
- 専門に特化した診療科に集約化する必要がある。内科、消化器科は専門を掲げているのでやる必要がある

## 委員会における主な意見:制約 財源(第1回～第4回総括)

建物の老朽化に伴う修繕・建替の検討については、現在の赤字の状態を確認し、今後必要な機能や具体的な場所等を絞り込みながら、ハード面の検討を進めていく必要がある

### 委員会における主な意見

#### 第1回議論抜粋(8/24)

- 経営の再編後であれば、病院の赤字分については、隣接3町に相応の負担をお願いすることもありではないか

#### 第2回議論抜粋(10/11)

- 補助金は9億円程度毎年出ており、市の負担は大きい
- 許容される赤字幅はどれくらいなのか、市民のコンセンサスを得る必要がある
- 累積赤字は65億円となっており、これ以上赤字は増やせない

#### 第3回議論抜粋(10/31)

- 建物の老朽化は実際に利用者も多い3町にとっても課題であり、建替に合わせ市民サービス向上に向け今後の経営の見直しも検討しているため3町にはぜひ協力願いたい

#### 第4回議論抜粋(2/6)

- -

### 主要な意見(抜粋)

- 経営の再編後であれば、病院の赤字分については、隣接3町に相応の負担をお願いすることもありではないか
- 補助金は9億円程度毎年出ており、市の負担は大きい
- 累積赤字は65億円となっており、これ以上赤字は増やせない



## 委員会における主な意見:経営形態(第1回～第4回総括)

一部事務組合化や地方独立行政法人化の可能性など、経営形態の特徴・他事例については議論されているが、川西病院にとって何が良いかの議論までは至っていない。今後は、機能と役割に応じた検討が必要である。

### 委員会における主な意見

#### 第1回議論抜粋(8/24)

- 今後、川西病院が今のまま継続していくのであれば、隣接3町との一部事務組合化はありではないか

#### 第2回議論抜粋(10/11)

- 医師にもっとフレキシブルに勤務してもらうには経営形態も考えるべき
- 市はある程度の責任を負うが、それ以上は独立した経営をやってもらうような経営形態をまず考えるべき

#### 第3回議論抜粋(10/31)

- 独法化については、人員配置は自由度が高まる。公務員型だと人件費の改善は望みにくい。コストダウンはまだ必要ではあるが、公的な性格上、一方的な採算重視も問題である。指定管理者は、市の意向を理解してくれる法人であれば、公的側面がありながら、小回りが利く
- 現体制では、市民に無限責任を負わせることになるので、経営体制の変更が必要。独立行政法人では市の意向が反映させやすい。指定管理者であれば、経営だけを優先する法人ではなく、市の意向をある程度反映してもらえる法人でないといけない
- 組合立は関係者が多くなり、説明も増えるため仲介者が必要
- 経営形態の変更はあっても外来機能はある程度重視すべき。利用者は適切な医療が受けられれば、経営形態の変更は問題ではない

#### 第4回議論抜粋(2/6)

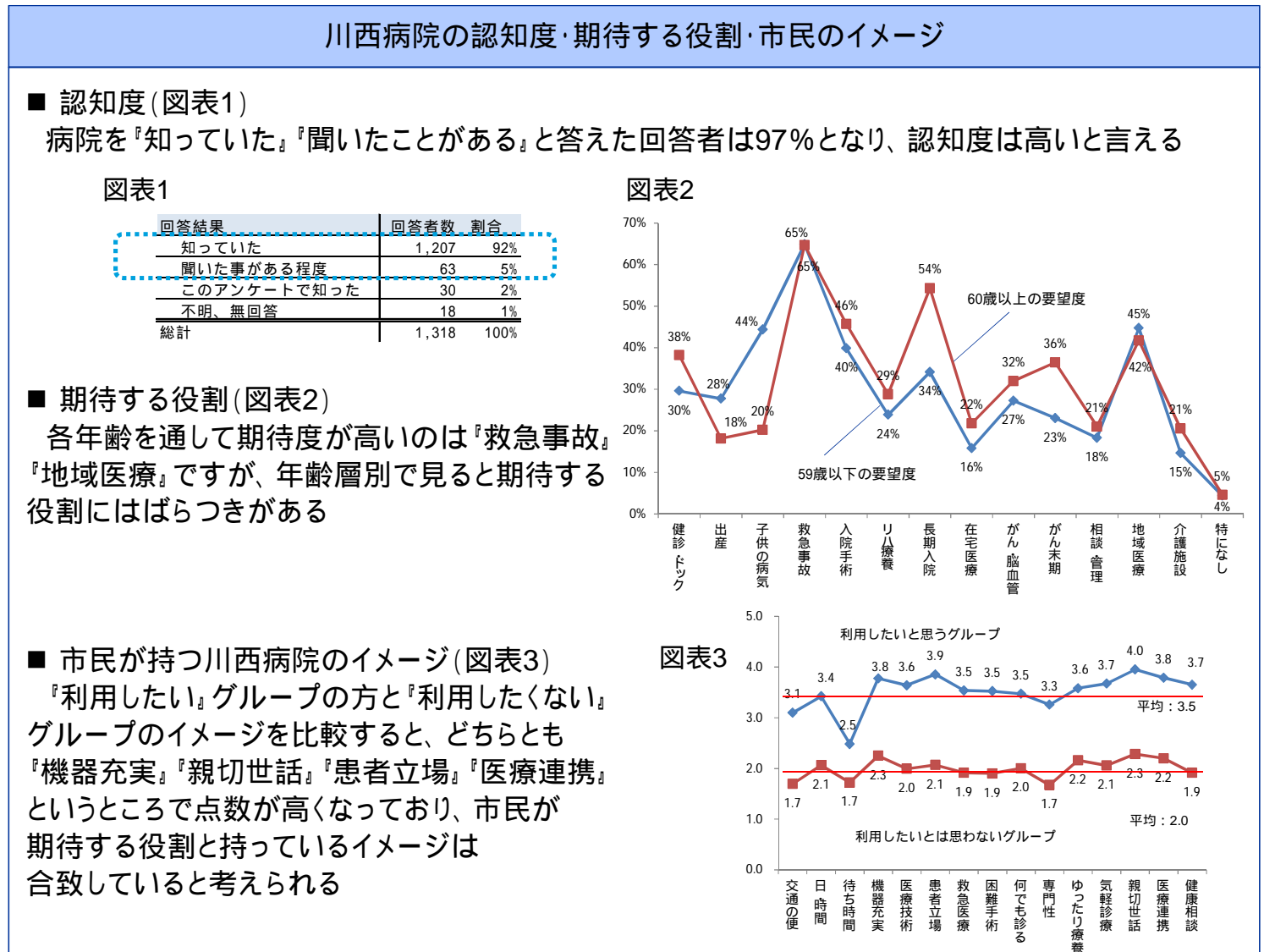
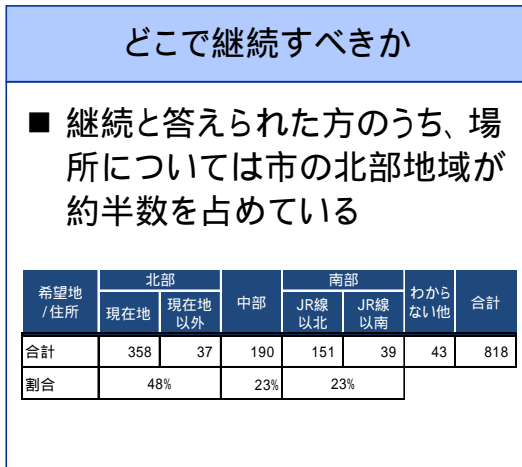
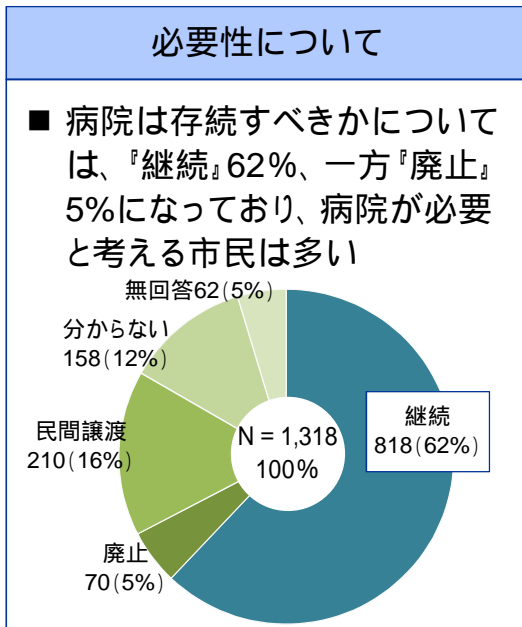
- 明石市民病院は独法化後、明石市出身の医師を中心に医師数は増え、現在看護師が不足で300床(400床のうち)が稼働している。2年目で黒字化。職員は、一般コメディカルだけでなく医師も意識が変わったと聞く

### 主要な意見(抜粋)

- 今後、川西病院が継続していくのであれば、3町との一部事務組合化はありではないか
- 医師にもっとフレキシブルに勤務してもらうには経営形態も考えるべき
- コストダウンはまだ必要ではあるが、公的な性格上、一方的な採算重視も問題である
- 経営形態の変更はあっても外来機能はある程度重視すべき
- 経営体制の変更が必要。独立行政法人は、市の意向が反映させやすい。指定管理者でも、市の意向をある程度反映してもらえる法人でないといけない

# 市民アンケート結果概要について

市民アンケートでは、『継続』の回答が全体の62%になっている。認知度は高く、期待する役割、イメージでは、市民の立場に立ち、地域に根ざした医療への期待が高いことがうかがえる



# 検討結果の整理

市立川西病院がこれからも公立病院として存続し、住民に良質な医療を提供していく必要がある。

あり方検討のステップ

**STEP1**  
現状把握

**STEP2**  
必要性の検討  
(どの場所に)  
(誰に)  
(どんな機能)

	主な意見	現状把握を受けて
STEP1	<p><b>必要性について</b> (委員の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 川西病院は市民に必須の病院である。市民のコンセンサスは得ないといけませんが、継続は間違いない</li> <li>■ 市北部における救急搬送の多くを川西病院が受けており、住民にとっては欠かせない</li> <li>■ アンケート結果では様々な必要性(救急や小児科等)があり、どのように満たすかは別にしても継続の必要があるのではないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 川西病院は、本市において重要な役割を果たしており、今後も医療の提供は不可欠である</li> <li>➢ 運営形態等は別にして、川西病院を今後も継続していくために必要な議論をしていく</li> </ul>
STEP2	<p><b>主な意見</b></p> <p><b>どの場所に</b> (委員の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 川西病院がなくなれば市北部が医療過疎地になる。特に小児医療は現在ベリタス病院の4床しかなく、重要な最後の砦となっている</li> <li>■ 立地が良くなければ、送迎バスなどのアクセス対応は必要である</li> </ul> <p><b>誰に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高齢化や整形外科、救急、小児科医療については、川西病院の医療のキーワードになる。近隣3町にとって川西病院の救急は必要</li> <li>■ 特に高齢者にとっては近くにあってすぐに対応してもらえる病院はこころ強い。今後、ますます高齢者が増え、がんの患者も増えている</li> </ul> <p><b>どんな機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標榜診療科については偏りすぎてもいけないが、総花的で赤字部門だけ残るのも困る。病床数は状況に合わせるべき</li> <li>■ 専門に特化した診療科に集約化する必要がある。内科、消化器科は専門を掲げているのでやる必要がある</li> </ul>	<p><b>検討の方向性(案)</b></p> <p><b>どの場所に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 具体的な建替規模の検討</li> <li>➢ 立地の確保(北部・中部・南部の候補地の比較、検討)</li> <li>➢ 送迎バスなどアクセスの検討</li> </ul> <p><b>誰にとってどんな機能が必要か</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 高齢者医療、小児科医療に必要な診療科の提供(がん緩和ケアを含む)</li> <li>➢ 市北部などに提供している救急機能の維持</li> <li>➢ 救急維持、診療科の専門化に伴い、周辺医療機関との連携の模索</li> <li>➢ 適切な病床規模の検討</li> </ul>

## 検討結果の整理

川西病院が存続していくために必要な医師確保、機能、規模、立地、経営形態等について、市民意見を踏まえた議論をすすめていく必要がある。

あり方検討のステップ

主要な意見

検討の方向性(案)

**STEP2**  
制約  
(医師の確保)  
(財源)

### 医師の確保

(委員の意見)

- 特化した科目や救急にポイントを絞れば近隣大学医局の協力が得られるのではないかと。一方で大学医局も複数持つ必要がある
- 指導医師など育ててくれる医師がいることが若手医師にとっては魅力的である

### 財源

(委員の意見)

- 経営の再編後であれば、病院の赤字分について、隣接3町に相応の負担をお願いすることもありではないか
- 補助金は9億円程度毎年出ており、市の負担は大きい
- 許容される赤字幅はどれくらいなのか、市民のコンセンサスを得る必要がある。

### 医師の確保

- 診療科の集約化
- 複数の大学医局との関係
- 研修指導医を確保するための施策

### 財源

- 建替えや、それに伴う建築コスト等の検討
- 市の財政負担の限度額
- 3町への運営負担も含めた協力要請の検討

**STEP2**  
経営の方向性

### 経営形態

(委員の意見)

- 医師にフレキシブルに勤務してもらうために経営形態も考えるべき
- コストダウンは必要だが、公的な性格上、一方的な採算重視も問題
- 経営形態の変更はあっても外来機能はある程度重視すべき
- 今のまま川西病院が継続するならば、3町との一部事務組合化も必要ではないか
- 経営体制の変更が必要。独立行政法人は、市の意向が反映させやすい。
- 指定管理者は市の意向に合う法人であれば、公的側面がありながら小回りが利く
- 明石市民病院では、医師を含む職員の意識が変化し、医師の増加が追い風となり、独法化2年目で黒字化に成功している

### 経営形態

- 各経営形態については実現可能かどうか検討
- 川西病院の医療提供状況を踏まえた相応しい経営形態について検討

## 市立川西病院あり方検討委員会 会議開催経過

### 検討委員会での検討項目

- 川西病院を取り巻く環境についての現状把握
- 「必要性」「制約」「経営の方向性」を軸とした検討
- 市民アンケート結果を踏まえた検討

### 会議開催経過

#### 第1回会議(平成24年8月24日)

##### ● 議題

- 市立川西病院の概況について  
あり方検討に当たっての現状把握について
- ・ 市立川西病院の経営状況
  - ・ 改革プランの取り組み状況
  - ・ 市の将来人口と医療需要
  - ・ 市の財政状況(財政収支計画) ほか  
今後の進め方

#### 第2回会議(平成24年10月11日)

##### ● 議題

- 市立川西病院の必要性について
- ・ 誰にとって必要か
  - ・ どのような医療機能が必要か
  - ・ どの場所で求められているか
  - ・ 市民の声をどのように聞いていくか

#### 第3回会議(平成24年10月31日)

##### ● 議題

- 運営に係る制約について
- ・ 医師の確保
  - ・ 立地
  - ・ 収支
- 経営の方向性の検討
- ・ 公営企業
  - ・ 独法化、指定管理、一部事務組合 など
- 市民アンケートの概要について

#### 第4回会議(平成25年2月6日)

##### ● 議題

- 市民アンケート調査結果について
- ・ 対象 16歳以上の市民3,000人
  - ・ 期間 平成24年11月27日～12月17日
  - ・ 回答者数 1,318人
  - ・ 回答率 43.9%
- アンケート結果説明  
結果を踏まえた委員会意見の集約

## 市立川西病院あり方検討委員会委員

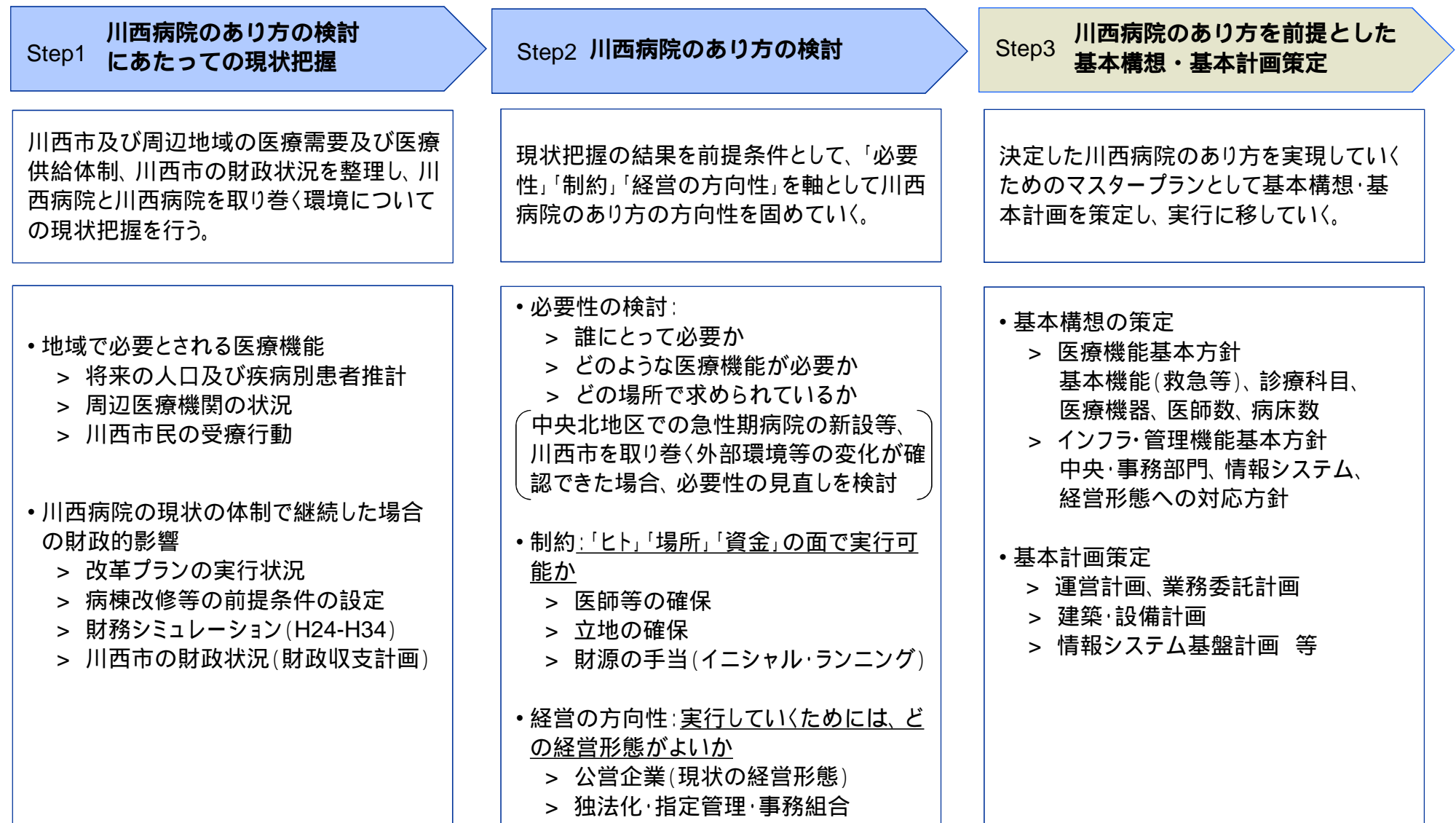
敬称略・五十音順

氏名	職業等	選出区分	備考
甲斐 良隆	関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授	学識経験者	
加門 文男	川西市コミュニティ協議会連合会理事	市民・利用代表者	
竹本 博行	川西市医師会長	医師会推薦者	副委員長
土岐 祐一郎	大阪大学大学院医学系研究科外科学(消化器外科)教授・ 大阪大学医学部附属病院消化器外科 診療科長	学識経験者 (医師派遣大学代表者)	
難波 光義	兵庫医科大学内科学糖尿病科主任教授・兵庫医科大学病院 副院長	学識経験者 (医師派遣大学代表者)	委員長
西 育良	公認会計士	学識経験者	
松本 圭司	兵庫県阪神北県民局伊丹健康福祉事務所長	地域医療関係行政機関の 職員	

**平成24年度 市立川西病院あり方検討委員会意見のまとめ**

## あり方の検討に向けてのステップ

川西病院のあり方の検討では、まず、川西病院を取り巻く環境についての現状を把握したうえで、「必要性」「制約」「経営の方向性」を軸とした検討を行い、基本構想・基本計画の策定へつなげていくこととした。





## 委員会における主な意見：必要性について（第1回～第5回の総括）

川西病院は、地域の医療機関にとって必要性が高く、本市における医療提供の重要な役割も果たしていることなどから、公立病院として継続していくべきである。

### 委員会における主な意見

#### 第1回議論抜粋(8/24)

- 川西病院は本当に必要なのか、状況に応じて病床数を考えるべき
- 課題(利用者の地域性など)があるが、市北部住民の利用者が多く必要性がある
- 川西病院がなくなれば阪神北圏域の病床数が不足になるので、現在の医療機能は重要

#### 第2回議論抜粋(10/11)

- 川西病院がなくなれば市北部が医療過疎地になり、住民は困ることになる
- 市北部の救急搬送の多くを川西病院が受けており、住民には欠かせない
- 川西病院は市民に必須の病院である。市民のコンセンサスは得ないといけませんが、継続は間違いない

#### 第3回議論抜粋(10/31)

- 継続するとして、阪神北医療圏域では隣接3町にどのように協力を仰ぐか検討すべき

#### 第4回議論抜粋(2/6)

- アンケート結果では様々な必要性(救急や小児科等)があり、どのように満たすかは別にしても継続の必要があるのではないか

#### 第5回議論抜粋(3/18)

- 一層の経営努力を行いつつ、内科、外科を中心とした病院経営を継続してほしい

### 主要な意見の要約

- 川西病院は市民に必須の病院である。市民のコンセンサスは得ないといけませんが、一層の経営努力を行うことを前提に、継続すべきである
- アンケート結果では様々な必要性(救急や小児科等)があり、どのように満たすかは別にしても継続の必要がある
- 一層の経営努力を行いつつ、内科、外科を中心とした病院経営を継続してほしい

## 委員会における主な意見：必要性の検討 どの場所に(第1回～第5回総括)

川西病院は、本市における医療提供において重要な役割を果たしている。

### 委員会における主な意見

#### 第1回議論抜粋(8/24)

- 中央北地区の医療機関については、現在は未定であるが、病院の新設はまちづくりと同時に考える必要がある。
- 医師会からの意見で言うと隣接町の医療も考えたい
- 市民のための病院であるので、隣接3町のために置いている訳ではない

#### 第2回議論抜粋(10/11)

- 市南部のクリニックは、市北部にある川西病院の評価は低い傾向にある
- 立地も含め、医師に来てもらえるような環境が必要
- 立地が良くなければ、アクセスの確保等の対応は必要である

#### 第3回議論抜粋(10/31)

- 阪神北医療圏域で見た場合、地域のクリニック等の医療機関との連携(分業)を考えるべき

#### 第4回議論抜粋(2/6)

- アンケート結果では、回答者の約6割が病院の継続を希望しており、場所については北部地域が最も多い

### 主要な意見の要約

- 小児医療については、他の医療機関との関係を考慮しながら立地を検討すべき
- 立地も含め、医療従事者の確保がしやすい環境が必要である
- 立地に応じて、アクセスの確保等の対応を考慮に入れる必要がある

## 委員会における主な意見：必要性の検討 誰にとって(第1回～第5回総括)

救急医療においては、重要な役割を果たしており、高齢化が進む地域においては、高齢者医療への対応が求められる。また、小児科の入院機能は川西病院に頼っており、小児科医療も必要である。

### 委員会における主な意見

#### 第1回議論抜粋(8/24)

- まanus高齢化が進み、外来については交通手段は重要な要素になってくる

#### 第2回議論抜粋(10/11)

- 高齢化や整形外科、救急、小児科医療については川西病院の医療のキーワードになる
- 小児医療は川西病院がなくなるとベリタス病院の4床しかなく、最後の砦である

#### 第3回議論抜粋(10/31)

- 高齢化に伴い、QOLやADLの観点から、内科、整形外科、泌尿器科、がん患者対応など、高齢者に必要な診療科が必要ではないか
- 高齢者にとっては、近くにあつてすぐに対応してもらえる病院は心強い
- 在宅医療を補完する役目も、点数が高い事もあるので必要ではないか
- 仮に経営形態の変更はあつても外来機能はある程度重視すべき。利用者は適切な医療が受けられれば、経営形態の変更は問題ではない

#### 第4回議論抜粋(2/6)

- 高齢化に伴う悪性疾患の対応については特にこれから要求される。がん患者対応や急性期から維持期、緩和期についてどこまで市民病院としてやるかが課題
- アンケート結果からは、子供の病気について、川西病院の利用希望率が低い。待ち時間の問題もあるが、分散して受診していると思われる

### 主要な意見の要約

- 高齢化が進む地域への地域密着の医療や、高齢者に必要な診療科への対応が必要になる
- 高齢化対応については、特にこれから要求される。近隣の医療機関と連携して、クリニックの補完的な役割を果たすことも必要である
- 仮に経営形態の変更はあつても外来機能はある程度重視すべき

## 委員会における主な意見：必要性の検討 どのような機能(第1回～第5回総括)

救急や小児科、専門化している内科、消化器科等について、近隣医療機関との連携を視野に入れた診療科の特化及び集約化が必要である

### 委員会における主な意見

#### 第1回議論抜粋(8/24)

- ベリタス病院に患者が流れている。病床数は状況に合わせるべき

#### 第2回議論抜粋(10/11)

- 標榜診療科については偏りすぎてもいけないが、公的病院としての役割を踏まえて検討する必要がある。
- 小児救急も輪番制で担っている、がん診療準拠点病院にもなっている
- 小児、産科、救急、循環器、整形、高齢者医療を残すとともに、目玉となる診療科も必要

#### 第3回議論抜粋(10/31)

- 高齢化に伴い、QOLやADLの観点から、内科、整形外科、泌尿器科、がん患者対応など、高齢者に必要な診療科が必要ではないか(再掲)
- 産科、小児、救急などコア診療科とし、他科を他医療機関に任せることも必要ではないか
- 地域的には高齢者が増え、がんの患者も増えている。がんの合併症等関連疾患が同時に治療できるシステムが将来的には欲しい

#### 第4回議論抜粋(2/6)

- アンケートを診ると、万遍なくやることは求められておらず、市民は機能に応じて病院を選択したいと考えている。
- 高齢化に伴い整形外科は必要であるが、現在他病院がその役目を担っており、それ以外の診療科で役目を果たすことも必要
- 専門に特化した診療科に集約化する必要がある。内科、消化器科は専門を掲げているのでやる必要がある

### 主要な意見の要約

- 標榜診療科については偏りすぎてもいけないが、内科、外科、小児科、救急については充実をめざし、公的病院として産科、整形外科は将来的に確保するよう努力していく必要がある
- 専門に特化した診療科に集約化する必要がある。内科、消化器内科は専門を掲げているのでやる必要がある

## 委員会における主な意見:制約 医師の確保(第1回～第5回総括)

川西病院の存続には、医師確保は最重要課題である。医師の募集チャンネルは複数必要であり、診療科の専門化は必要である。また、集約化された診療科のラインナップと、若手の育成に注力すべきである。

### 委員会における主な意見

#### 第1回議論抜粋(8/24)

- ある診療科科目や疾患について地域で集中的に取り組みたいのであれば大学として重点的に医師を派遣する事は可能
- 医師の募集チャンネルも複数持つ必要がある。特化した科目や救急にポイントを絞るのであれば近隣大学医局の協力が得られるのではないか

#### 第2回議論抜粋(10/11)

- 指導医師など育ててくれる医師がいることが若手医師にとっては魅力的である
- 立地も含め、医師に来てもらえるような環境が必要

#### 第3回議論抜粋(10/31)

- -

#### 第4回目議論抜粋(2/6)

- 大学の都合で診療科の集約化は避けられない。全診療科に医師が来るのは無理であろう
- 専門性が低いというアンケート結果だが、消化器については他病院と比しても遜色はない
- 専門に特化した診療科に集約化する必要がある。内科、消化器科は専門を掲げているのでやる必要がある(再掲)

#### 第5回目議論抜粋(3/18)

- 女性医療職が勤務しやすい体制や医師が応募しやすいフレキシブルな勤務体制などを整える必要がある

### 主要な意見の要約

- 特化した科目や指導医師がいることなど、若手医師にアピールできるポイントが重要である
- 医師の募集チャンネルを複数持つ必要がある
- 女性医療職が勤務しやすい体制や医師が応募しやすいフレキシブルな勤務体制などを整える必要がある

## 委員会における主な意見:制約 財源(第1回～第5回総括)

建物の老朽化に伴う修繕・建替の検討については、現在の赤字の状態を確認し、今後必要な機能や具体的な場所等を絞り込みながら、ハード面の検討を進めていく必要がある

### 委員会における主な意見

#### 第1回議論抜粋(8/24)

- 現状の経営形態での経営努力や経営形態の見直しを行った結果、改善が見られないのであれば、病院の赤字分については、市外利用者に相応の負担をお願いすることもありではないか

#### 第2回議論抜粋(10/11)

- 累積赤字は65億円となっており、これ以上赤字は増やせない
- 補助金は9億円程度毎年出ており、市の負担は大きい
- 許容される赤字幅はどれくらいなのか、市民のコンセンサスを得る必要がある

#### 第3回議論抜粋(10/31)

- 建物の老朽化は実際に利用者も多い3町にとっても課題であり、建替に合わせ市民サービス向上に向け今後の経営の見直しも検討しているため3町にはぜひ協力願いたい

#### 第4回議論抜粋(2/6)

- -

### 主要な意見の要約

- 累積赤字は65億円となっており、これ以上赤字は増やせない
- 補助金は9億円程度毎年出ており、市の負担は大きい
- 現状の経営形態で経営努力の結果、改善が見られないのであれば、組合立も含めて経営形態を変更していく必要がある

## 委員会における主な意見：経営形態（第1回～第5回総括）

一部事務組合化や地方独立行政法人化の可能性など、経営形態の特徴・他事例については議論されているが、川西病院にとって何が良いかの議論までは至っていない。今後は、機能と役割に応じた検討が必要である。

### 委員会における主な意見

#### 第1回議論抜粋(8/24)

- 今後、川西病院が今のまま継続していくのであれば、隣接3町との一部事務組合化はありではないか

#### 第2回議論抜粋(10/11)

- 医師にもっとフレキシブルに勤務してもらうには経営形態も考えるべき
- 市はある程度の責任を負うが、それ以上は独立した経営をやってもらうような経営形態をまず考えるべき

#### 第3回議論抜粋(10/31)

- 独法化については、人員配置は自由度が高まる。公務員型だと人件費の改善は望みにくい。コストダウンはまだまだ必要ではあるが、公的な性格上、一方的な採算重視も問題である。指定管理者は、市の意向を理解してくれる法人であれば、公的側面がありながら、小回りが利く
- 現体制では、市民に無限責任を負わせることになるので、経営体制の変更が必要。独立行政法人では市の意向が反映させやすい。指定管理者であれば、経営だけを優先する法人ではなく、市の意向をある程度反映してもらえる法人でないといけない
- 組合立は関係者が多くなり、説明も増えるため仲介者が必要

#### 第4回議論抜粋(2/6)

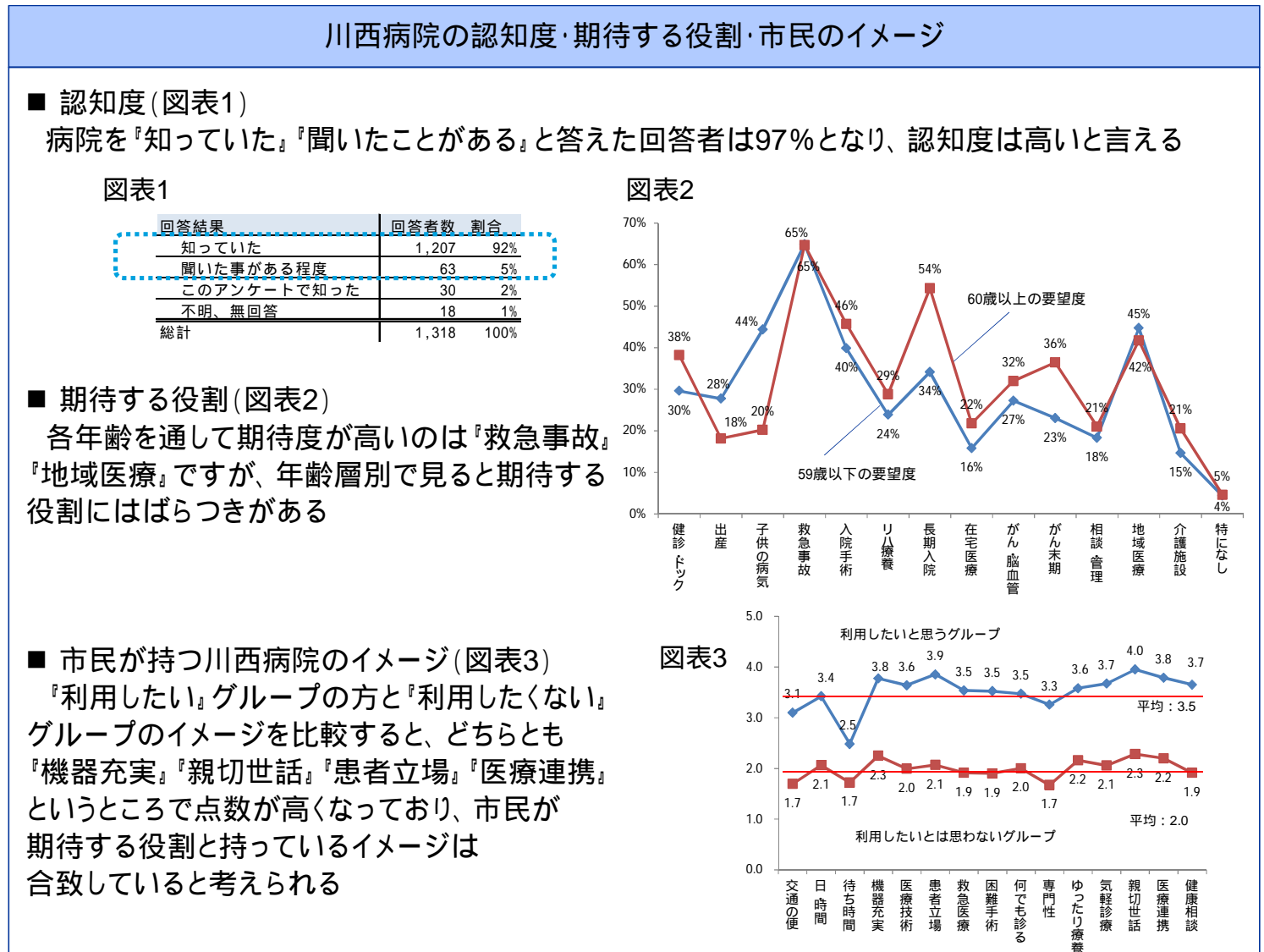
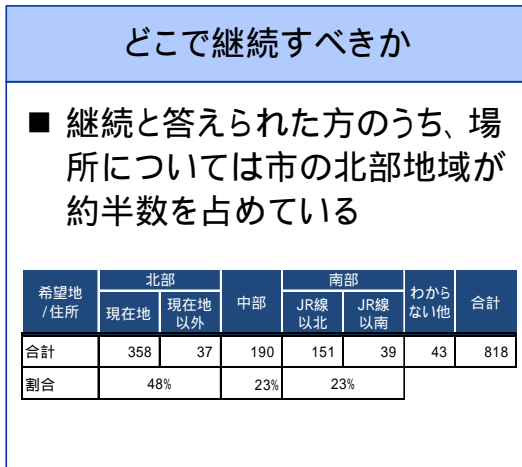
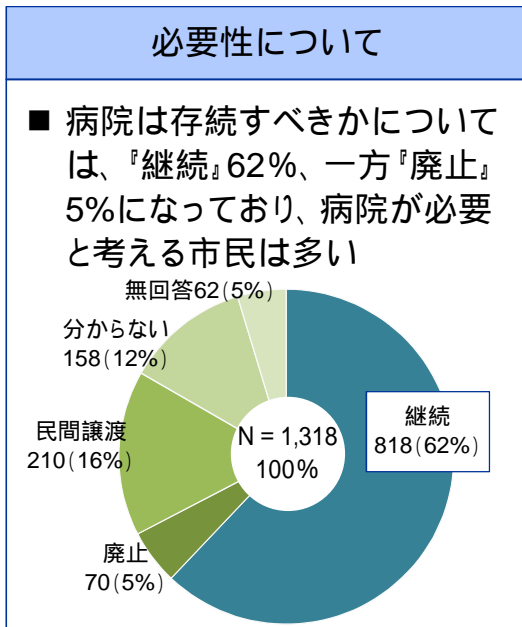
- 明石市民病院は独法化後、明石市出身の医師を中心に医師数は増え、現在看護師が不足で300床(400床のうち)が稼働している。2年目で黒字化。職員は、一般コメディカルだけでなく医師も意識が変わったと聞く

### 主要な意見の要約

- 今後、川西病院が継続していくのであれば、市外利用者にも相応の負担をしてもらうべきではないか
- 医師にもっとフレキシブルに勤務してもらうには経営形態も考えるべき
- コストダウンはまだまだ必要ではあるが、公的な性格上、一方的な採算重視も問題である
- 経営努力にもかかわらず、改善されない場合は、経営体制の変更が必要。しかし、市の医療に対する意向も反映できるような体制は必要である

# 市民アンケート結果概要について

市民アンケートでは、『継続』の回答が全体の62%になっている。認知度は高く、期待する役割、イメージでは、市民の立場に立ち、地域に根ざした医療への期待が高いことがうかがえる





## 検討結果の整理

市立川西病院がこれからも公立病院として存続し、住民に良質な医療を提供していく必要がある。

あり方検討のステップ

### STEP1 現状把握

### STEP2 必要性の検討 (どの場所に) (誰にとって) (どんな機能)

#### 主な意見

##### 必要性について

- 川西病院は市民に必須の病院である。市民のコンセンサスは得ないといけないが、一層の経営努力を行うことを前提に、継続すべきである
- アンケート結果では様々な必要性(救急や小児科等)があり、どのように満たすかは別にしても継続の必要がある
- 一層の経営努力を行いつつ、内科、外科を中心とした病院経営を継続してほしい

#### 現状把握を受けて

- 川西病院は、本市において重要な役割を果たしており、今後も医療の提供は不可欠である
- 経営形態等は別にして、川西病院を今後も継続していくために必要な議論をしていく

#### 主な意見

##### どの場所に

- 小児医療については、他の医療機関との関係を考慮しながら立地を検討すべき
- 立地も含め、医療従事者の確保がしやすい環境が必要である
- 立地に応じて、アクセスの確保等の対応を考慮に入れる必要がある

##### 誰にとって

- 高齢化の進む地域への地域密着の医療や、高齢者に必要な診療科への対応が必要になる
- 高齢化対応については、特にこれから要求される。近隣の医療機関と連携して、クリニックの補完的な役割を果たすことも必要である
- 仮に経営形態の変更はあっても外来機能はある程度重視すべき

##### どんな機能

- 標榜診療科については偏りすぎてもいけないが、内科、外科、小児科、救急については充実をめざし、公的病院として産科、整形外科は将来的に確保するよう努力していく必要がある
- 専門に特化した診療科に集約化する必要がある。内科、消化器内科は専門を掲げているのでやる必要がある

#### 検討の方向性(案)

##### どの場所に

- 具体的な建替規模の検討
- 立地の確保(北部・中部・南部の候補地の比較、検討)
- 送迎バスなどアクセスの検討

##### 誰にとってどんな機能が必要か

- 高齢者医療、小児科医療に必要な診療科の提供(がん緩和ケアを含む)
- 市北部などに提供している救急機能の維持
- 救急維持、診療科の専門化に伴い、周辺医療機関との連携の模索
- 適切な病床規模の検討

## 検討結果の整理

川西病院が存続していくために必要な医師確保、機能、規模、立地、経営形態等について、市民意見を踏まえた議論をすすめていく必要がある。

あり方検討のステップ

主要な意見

検討の方向性(案)

### STEP2

制約

(医師の確保)

(財源)

#### 医師の確保

- 特化した科目や指導医師がいることなど、若手医師にアピールできるポイントが重要である
- 医師の募集チャンネルを複数持つ必要がある
- 女性医療職が勤務しやすい体制や医師が応募しやすいフレキシブルな勤務体制などを整える必要がある

#### 財源

- 累積赤字は65億円となっており、これ以上赤字は増やせない
- 補助金は9億円程度毎年出ており、市の負担は大きい
- 現状の経営形態で経営努力の結果、改善が見られないのであれば、組合立も含めて経営形態を変更していく必要がある

#### 医師の確保

- 診療科の集約化
- 複数の募集チャンネルとの関係
- 研修指導医を確保するための施策

#### 財源

- 建替えや、それに伴う建築コスト等の検討
- 市の財政負担の限度額
- 3町への運営負担も含めた協力要請の検討

### STEP2

経営の方向性

#### 経営形態

- 今後、川西病院が継続していくのであれば、市外利用者にも相応の負担をしてもらうべきではないか
- 医師にもっとフレキシブルに勤務してもらうには経営形態も考えるべき
- コストダウンはまだまだ必要ではあるが、公的な性格上、一方的な採算重視も問題である
- 経営努力にもかかわらず、改善されない場合は、経営体制の変更が必要。しかし、市の医療に対する意向も反映できるような体制は必要である

#### 経営形態

- 各経営形態については実現可能かどうか検討
- 川西病院の医療提供状況を踏まえた相応しい経営形態について検討

# 市立川西病院あり方検討委員会 会議開催経過

## 検討委員会での検討項目

- 川西病院を取り巻く環境についての現状把握
- 「必要性」「制約」「経営の方向性」を軸とした検討
- 市民アンケート結果を踏まえた検討
- 検討委員会での意見まとめ

## 会議開催経過

### 第1回会議(平成24年8月24日)

#### ● 議題

- 市立川西病院の概況について  
あり方検討に当たっての現状把握について
- 市立川西病院の経営状況
  - 改革プランの取り組み状況
  - 市の将来人口と医療需要
  - 市の財政状況(財政収支計画) ほか  
今後の進め方

### 第2回会議(平成24年10月11日)

#### ● 議題

- 市立川西病院の必要性について
- 誰にとって必要か
  - どのような医療機能が必要か
  - どの場所で求められているか
  - 市民の声をどのように聞いていくか

### 第3回会議(平成24年10月31日)

#### ● 議題

- 運営に係る制約について
- 医師の確保
  - 立地
  - 収支
- 経営の方向性の検討
- 公営企業
  - 独法化、指定管理、一部事務組合 など
- 市民アンケートの概要について

### 第4回会議(平成25年2月6日)

#### ● 議題

- 市民アンケート調査結果について
- 対象 16歳以上の市民3,000人
  - 期間 平成24年11月27日～12月17日
  - 回答者数 1,318人
  - 回答率 43.9%
- アンケート結果説明  
結果を踏まえた委員会意見の集約

### 第5回会議(平成25年3月18日)

#### ● 議題

- 平成24年度市立川西病院あり方検討委員会意見のまとめについて  
今後のスケジュールについて

## 市立川西病院あり方検討委員会委員

敬称略・五十音順

氏名	職業等	選出区分	備考
甲斐 良隆	関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授	学識経験者	
加門 文男	川西市コミュニティ協議会連合会理事	市民・利用代表者	
竹本 博行	川西市医師会長	医師会推薦者	副委員長
土岐 祐一郎	大阪大学大学院医学系研究科外科学(消化器外科)教授・ 大阪大学医学部附属病院消化器外科 診療科長	学識経験者 (医師派遣大学代表者)	
難波 光義	兵庫医科大学内科学糖尿病科主任教授・兵庫医科大学病院 副院長	学識経験者 (医師派遣大学代表者)	委員長
西 育良	公認会計士	学識経験者	
松本 圭司	兵庫県阪神北県民局伊丹健康福祉事務所長	地域医療関係行政機関の 職員	